

Flex 4 and LiveCycle Data Services 3: Data Driven Development

- Web サービスへのアクセス
 - Web サービスの利用
 - Web サービスメソッドの呼び出しと結果の利用
 - ウォークスルー1 : Web サービスの利用
 - イベントハンドラによる実行結果の処理
 - ウォークスルー2 : result イベントの利用
 - 障害の処理
 - ウォークスルー3 : fault イベントの利用
 - 同一の WebService オブジェクトからの複数メソッドの呼び出し
 - ウォークスルー4 : <s:operation> コンパイラタグの利用
 - Web サービスへのパラメータの送信
 - ウォークスルー5 : Web サービスへの値の送信
- リモートオブジェクト接続の利用
 - LCDS / BlazeDS について
 - リモータイングサービスとは
 - ウォークスルー1 :
ローカルの RemoteObject プロキシを介したリモートメソッドの実行
 - RPC イベントの処理
 - ウォークスルー2 :
RemoteObject の result および fault イベントの処理
 - 複雑なリモートメソッドの呼び出し
 - ウォークスルー3 : メソッド単位のハンドラ指定とパラメータの受け渡し
 - ActionScript と Java 間のデータ転送時の型変換
 - ウォークスルー4 :
リモートメソッド呼び出しでのバリューオブジェクトの送信
 - AsyncToken による RemoteObject イベントの管理
 - ウォークスルー5 :
AsyncToken による RemoteObject イベントの処理
 - リモータイングサービスの実行時設定
 - ウォークスルー6 : 宛先のチャンネルを実行時に設定

- クライアント上でのデータ管理
 - コレクションクラスとは
 - クライアント上でのデータのフィルタリング
 - ウォークスルー1 : クライアントでのデータのフィルタリング
 - クライアント上でのデータのソート
 - ウォークスルー2 : データのソート
 - IViewCursor インターフェイスの利用
 - ウォークスルー3 : カーソルによるデータの検索

- メッセージサービスの利用
 - メッセージサービスについて
 - ウォークスルー1 : メッセージ宛先の設定の確認
 - メッセージの送信
 - ウォークスルー2 : メッセージの送信
 - メッセージの受信と処理
 - ウォークスルー3 : メッセージの受信と処理
 - 複雑なデータの送受信
 - ウォークスルー4 : 複雑なデータの送受信
 - メッセージフィルタリングの実装
 - ウォークスルー5 : メッセージフィルタリングの実装

- Flash Builder の各種開発ツールの利用
 - ロギングの利用
 - デバッグの実行
 - ウォークスルー1 : デバッグ、ロギング、および条件付きブレークポイント
 - プロファイラについて
 - ウォークスルー2 : アプリケーションのプロファイリング
 - ウォークスルー3 : ネットワークモニター の利用

- モデル駆動型開発によるアプリケーション開発
 - LCDS のモデル駆動型開発のメリット
 - ウォークスルー1 : 環境設定
 - データモデルの作成と使用
 - ウォークスルー2 : データモデルの作成とデータの表示
 - モデルにプロパティを追加
 - ウォークスルー3 : 派生プロパティの作成

- フォームでのスタイルの利用
 - ウォークスルー4 :
スタイルを使用したフォームプロパティのフォーマットと検証
 - 返されるデータのフィルタリング
 - ウォークスルー5 : データのフィルタ
-
- 高度なモデル駆動型開発テクニックの実装
 - ウォークスルー1 : バリエーションの実装
 - リソースバンドルを利用したローカライゼーション
 - ウォークスルー2 : フォームのローカライズ
 - フォームジェネレーターテンプレートの変更
 - ウォークスルー3 : フォームの ComboBox を List に変更
 - サーバー側 Java コードの生成
 - ウォークスルー4 : サーバー側 Java コードの表示